

観音寺中学校 道徳通信 4月号

令和6年度がスタートしました。新しい環境になり、期待に胸を膨らませている、でも少し不安もあるという人もいるでしょう。仲間と手を取り合いながら、楽しい中学校生活をつくっていきましょう！
さて、今回は谷川俊太郎さんの「わたしがたねをまかなければ」という詩を紹介します。

わたしがたねをまかなければ

谷川俊太郎

わたしがたねをまかなければ

はなはひらかなない

ぼくがあしをふみだすとき

みちはかぎりない

じぶんでかんがえ

じぶんではじめる

幸小（さいわいしよう）のわたしたち

わたしがあすをあきらめたら

あさはもうこない

ぼくがほしをみつめるとき

そらはかぎりない

あせらずこつこつ

ねばってやりぬく

幸小のわたしたち

ひとりがうたをうたいだすと

こえはこだまする

ひとりひとり てをつないで

ゆめはかぎりない

みんなでなかよく

ちからをあわせる

幸小のわたしたち



新たなことに挑戦することは不安ですよ。でも、自分が勇気をもって一步踏み出さなければ、自分の望む「花」は開きません。時間をかけて、こつこつと努力を重ねることで花は開くのです。あなたが頑張っている姿に周囲は共鳴し、大輪の花が咲き誇るのです。仲間や自分を信じ、新たな一步を踏み出してみませんか？

返信をありがとうございます。～前年度の道徳通信3月号の返信より～

・「悔しい」思いを体験することは、自分自身が成長できるチャンスだと思います。「悔しい」思いをバネに、どんなに厳しい状況の中であっても困難に立ち向かい、乗り越えられる力を身につけることの大切さを学んでほしいと思いました。

・息子はまだ人生経験が浅いため、おそらくピンチは経験したことがないと思います。いつか人生を一人で歩む時が来て、辛い事、しんどい事、悔しい事などに見舞われた時、すぐ逃げ出さずにきちんと向き合えるそんな心の持ち方をしてほしいと思います。

道徳通信は毎月1回、観音寺中学校道徳の日に発行されます。

毎回、よりよい生き方を考えるためのヒントや、道徳の授業の様子を紹介していきますので、よろしくお願いいたします。

----- キ リ ト リ 線 -----

返 信 欄 （ご感想などをお願いします。）